

自己の意思決定をもとにした企業選択を支援する ワークシートの検討 —個別カウンセリングに着目して—

Examination of Worksheet Used in Classes for Supporting to Select Companies based on one's Own Decision-making

—Focus on individual counseling—

濱田 佳奈子*, 久保田 真一郎**, 都竹 茂樹**, 中野 裕司**

Kanako HAMADA, Shin-Ichiro KUBOTA, Shigeki TSUZUKU, Hiroshi NAKANO

* 熊本大学大学院 社会文化科学教育部 教授システム学専攻

** 熊本大学 教授システム学研究センター

*Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

**Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University

＜あらまし＞ 筆者は現在、就職活動が本格化する直前の大学3年次の後期（9～12月）に、志望企業の自己選択・自己決定を支援する講座を開発する研究に取り組んでいる。本稿では、現状分析と講座の概要に照らし合わせ、学習活動で必要となるワークシートについて、作成要件を示した。

＜キーワード＞ キャリア教育、授業分析、授業設計、高等教育、大学教育

1. 背景

就職活動支援の場において、職業選択における悩みを抱える学生は多い。その悩みの背景には、職業選択は個人の人生にとって極めて重要な意思決定であるとともに、大学生にとって入社できる企業の数そのものが多く、選択肢が極端に多い意思決定（下村 1996）であることが挙げられる。社会経験のない大学生が、制限のある短期間で、業界や企業を知り、自分に適した環境を選ぶことは難しく、さらに、自分が選択した環境の良し悪しは、入社して働き始めるまでわからない。

筆者が、就職活動中の大学4年生11名に対し、本年4月に1対1の半構造化インタビューを行ったところ、「いまだに何がやりたいかわからない」、「第一志望が決まらない」、「複数内定をもらっているがどの企業に決めるか決断できない」といった企業選定や意思決定に関する悩みを、就職活動が本格化してからもなお持っていることがわかった。これらの悩みは、学生本人と応募企業・応募職種のミスマッチや、応募企業へのアピール不足につながっており、結果として、選考通過に至らなかつたり、就職活動への取り組み意欲が低下したりしている。

2. 目的

このように、志望企業・職業選択における現場課題は多くありながらも、筆者が携わっている大学でのキャリア科目は、志望企業・職業の自己選択を支援する内容になっておらず、学生自身が志望企業や職種を決定している前提で就職活動の準備を行っていた。

そこで、就職活動が本格化する直前の大学3年生の後期に、学生が、自分の能力や価値観を理解し、企業や職種の情報と照らし合わせ、自分で意思決定して志望企業を選択できるようになる講座が必要であると考えた。

3. 先行研究

下村（1996）は、「就職活動の経験のない3年生レディネス高群は、自分の就きたい企業を中心に探索する"選択肢中心の情報探索"を行い、一方で、就職活動を経験した4年生レディネス高群は、自分が重視する選択基準を中心に探索する"属性中心の情報探索"を行ったということを指摘できる」と述べている。

また、小菅（2020）は、Stevens & Beachが提唱したイメージ理論における探索方法である「探索型戦略」に着目し、就職活動目標が情報探

索戦略に及ぼす影響を論じている。そこでは、志望を明瞭にすることの重要性が確認され、一社集中目標を重視させ、焦点型の情報探索戦略の使用へと導くことが満足度の高い内定につながることが示唆されている。

これらの先行研究から、就職活動開始前の3年生に対して「職業・企業選定基準」を明確にすることが、その後の情報探索の助けとなり、志望企業・職種の意思決定に寄与できるのではないかと考える。

4. 研究課題

本講座は、学生の企業選定に関する悩みに対し、志望企業を自己選択・決定することへの動機付けを行った上で、その人を構成する特性（スキル、能力、性格、価値観等）と、その職業の条件（仕事内容や仕事に必要な要件）を上手くマッチングさせることが重要であるというキャリア理論の一つである特性因子理論（Parsons 1909）をベースに、1. 自己理解、2. 職業理解、3. 両者のマッチングという3段階のプロセスで構成する。この3段階のプロセスの中から、最も重要な介入として両者のマッチングに焦点を当て、1対多の講義で自己理解と職業理解を促すことに加え、発展学習として、キャリアコンサルタントである教員との1対1の個別カウンセリングを行う。この個別カウンセリングで、学生個々人に応じた自己理解と職業理解のマッチングへの支援が適切に行われ、志望企業の自己選択・決定を促すために、志望企業選択までのプロセスの記録と、個別カウンセリングの材料とすることを目的とした『志望企業選択支援ワークシート』が必要となる。

5. ワークシートの要件と今後の課題

『志望企業選択支援ワークシート』の要件を表1で示した。学生が、自分の能力や価値観を理解し、企業選択までのプロセスを、順を追って記録することで学生自身が成長を実感できるものとした。また、行動を促す目的でアクションプランの機能も持たせる。

自分自身の経験を振り返り、記録するものとして、LMS やポートフォリオも考えられるが、大学で使われている LMS は、卒業後はログインできなくなるという弱点もある。卒業後（就職後）

も見返すことができ、また、教員との個別カウンセリングで使われることから教員との共有のしやすさも要件に加えた。

今後は講座の全体設計を行うとともに、専門家や学生のレビューをもとに、学習活動に基づくワークシートのプロトタイプを作成していく。

表1：志望企業選択支援ワークシートの要件

1	成功体験を振り返る項目があり、その中から自分の得意なことを言語化できること
2	企業・職業の選択基準を記録する項目があること
3	選択した志望企業や職種を記録する項目があること
4	企業選択のプロセスや変化など、学生が成長を実感できる機能を持たせること
5	就活のアクションプランを作成する項目があること
6	キャリアコンサルタントである教員との面談内容や助言などを記録する項目があること
7	キャリアコンサルタントである教員との個別カウンセリングに利用することから、学生と教員が共有しやすいツールを採用すること
8	卒業後（就職後）も見返すことができ、アクセスしやすいツールを採用すること

参考文献

- 小菅清香 (2020) 就職活動目標が情報探索戦略に及ぼす影響—探索型戦略の質に着目して
—. キャリア教育研究, 39(1):1-12
- Parsons, Frank. (1909) Choosing a vocation.
Boston, Houghton Mifflin
- 下村英雄 (1996) 大学生の職業選択における情報探索方略. 教育心理学研究, 44(2): 145-155